新たな歴史への一歩

平成３１年４月２日、３人の選手がグラウンドの内野インフィールドをすべてレーキで掻き、きれいに整備をしていた。その脇でマネージャー２名が道具を出し、ラインを引いている。練習はじめは、挨拶からであった。「お願いします。おはようございます。」の言葉が大きな声ではっきりとした口調で繰り返されていた。**選手は３年生の３名。マネージャーは２年生の２名のチームであった。そして、今年度から着任してきた４名の教員がその野球部の顧問**となった。**３名は技術指導の経験が豊富な教員**であった。さっそく部員達が挨拶にやってきた。彼らとの初めての対面だった。

さっそく指導者も含め３名の部員と２名のマネージャーの計８名でミーティングを行った。まずはどんな野球部なのか、残りの３ヶ月の高校野球はどう過ごしたいのかについて、部員が語ってくれた。３人になってしまったけど練習は真剣に取り組んできた。キャプテンはもともといない。連合チームになっても３人で力を合わせて、他のチームを引っ張ってきた。それは勝つために。**何より夏の大会で勝ちたい。**単独チームで出場できなかったとしても**勝ちを目指して球場で野球をやりたい。**その言葉は、まっすぐでとても素直な音だった。次に**どんな野球部になってしまったら、嫌なのか**という質問を顧問は投げかけた。すると、**練習をさぼってしまう。ダラダラしている。挨拶ができない。全力で走らない。礼儀を重んじない**など野球に取り組む態度のことが多く挙がった。マネージャーも同じ意見だった。彼らの３ヶ月の**一番の達成したい目標は、高浜高校野球部として、チームで勝ちを見据えて活動し、夏の大会で勝つことだった。とても、真剣に話す彼らの表情に顧問達は心に響くものを感じた。**その目標を達成するために**今後の方針は、まず９人の部員を集める。**そして、**今まで当たり前にやっていたことを振り返り、必要なことと変えてもよいところを整理する**思考をもち、**少しでも野球が上手くなって、チームとして勝つ野球部をつくること。**最初に整理したことは、**丸刈りの髪型**だった。丸刈りは何のためにやっていたかを考えると、覚悟のため、強いチームがやっているから、自分たちが長髪だと弱いと思われるからだった。その理由は髪型に表さなくても解決できると判断し、止めてみることにした。次に多くの高校野球部で行われている**１年生の走り込みとトレーニング**。そもそも９人程度のチームでは１年生に基礎体力を向上することを目的にトレーニングをするよりも野球の技術練習が優先である。さらに、**下級生が行う雑用や準備**なども２年生のいないチームにとって、そんな上下関係よりも最上級生が環境を整えてあげた方が活動の効率が上がるのではないかと考えた。この３つの改善を決めて新入生を迎える決意を固めた。

入学式が終わり、新入生が部活見学にやってきた。校内部活見学の時間に２０名以上の見学者が来てくれた。次の日から体験入部として５名程度の人数が毎日入れ替わり立ち替わり・・・結果、**なかなか定着しない。**３年生の３人の選手と２人のマネージャーが交代で昼休みに１年生の教室に行って、**自分達の想いを伝**

えに１週間通った。その結果、**８名の新入生が入部**を決めた。その内、５名は中学校での野球部経験者。３名は中学校ではテニス部、卓球部、サッカー部であった。しかも、２名は野球チームに所属したことがない。**５人の部員の頑張りやひたむきさが彼らの心を動かした**のだろう。３年生３人の選手は安心した表情をみせた。「これで、高浜高校として、夏の大会の勝利に向けて、頑張ることができる。」**勝つための意欲がわいてきた。**

５月 GW を迎え、徐々にチームとしての組織作りが行われてきた。３年生の３名が各々に個性に応じた指導を発揮していた。１年生に対して、**全体に指示を出しながら、個々にやり方を丁寧に伝え、コミュニケーションを密にとろうとしている選手**、３人程度の小集団に**自分で動いてみせながらやり方を教え、さらにほめる言葉を投げかけている選手**。戸惑っている１年生を見かけたら、**励まし支えながら手を貸してあげる選手**と**三様のまとめ方**を行っていた。そのおかげで１年生達の理解や野球に対する**意欲がスムーズに上がってきていた。**しかし、５月中旬、練習試合も毎週行われてきて、夏の大会に本格的に見通しを立てた練習が始まってきたが、当然、試合には勝てない。守れない。打てない。戦術も理解から行動にうつせない。その現実に３年生達は焦りを見せ始めていた。それぞれの良さではなく、お互いの粗が気になって、許せなくなり、バランスを崩しはじめていた。細かく教えすぎて効率が悪い。手伝うのではなく、指示を出してほしい。何か思っているなら自分で全体への指示を出してほしい。各々が自分のやり方以外を認める余裕がなくなり、視野がどんどん狭くなっていたのだ。練習内容に関しても、練習時間が短い。きついトレーニングも少ない。新しい技術練習や走塁やポジショニングなどの戦術練習の多さから理解が追いつかない。やってきた練習から大きく変化したため気持ちも考えも整理できずに不安が増大していった。１年生に雑用を任せるのではなく３年生が率先して自らやると決めたのに甘えはじめる。イライラした気持ちを態度や行動に出す。心配りや気配りが消えていく。率先してダッシュしていたのに脚が止まってしまった。そこで**顧問達は、全体や個別に大会までの見通し、練習の意図、お互いの良さ、改善してもらいたいところをその都度、繰り返し何度も説明していった。**４回、５回と繰り返すうちに徐々に改善がみえるようになってきた。**彼らの魅力は素直さだ。**おそらく、優先順位が整理できずにいることや今までの習慣を新しい習慣に変える作業に時間がかかるのだと理解した。だから、顧問達も彼らの行動改善を促すことに対して、少し余裕をもって見通しができるようになってきていた。

６月に入り、練習試合は相変わらず負けが続いている。ただ、走塁やポジショニングの戦術を理解し、実践できる場面が増えてきた。バッティングもコツをつかみ１年生もヒットが出始め、ランナーを試合で経験することで、普段の練習の意図にも気づき始めた。**初心者の２人も人生初のヒット**を打ち、ようやく出塁することができた。でも、舞い上がってしまい、その後の走塁や戦術に関しては考える余裕はなかった。それ

でも、**大きな進歩**だ。練習と試合の違い、練習の目的を実感できたからだ。守備もようやくフライが捕れるようになってきた。初めの２ヶ月は大きくポジショニングをベンチから指示していた。１０メートル以上ポジショニングを動かし、打球を予測する。その予測に慣れつつあった。隣のポジションを見ながら自分のポジションを決めることができるようになってきた。**１年生がようやくチームになるための一歩を踏み始めた**。ところが、**３年生のエースは悩みと不安**でどうしても、目先の結果にとらわれ、次へのステップだと顧問が提案した意図に納得できずにいた。顧問達と何度も話をして気持ちをすり合わせ、試合でようやく大胆にピッチング方法を変更させ、ようやく１つ上の技術や考えをつかめた。顧問達は１つ乗り越えた安堵感を得て、さらに次のステップへ移行した。だが、そのステップにやはり戸惑い、結果１イニングに１３失点。もはや思考も停止し、ただカー杯投げていた。カー杯の力感で投げられたボールは、タイミングがあいやすく２年間、毎日練習してきた選手にとって打つことは容易なことだった。そのイニングが終わったあと、彼はトボトボ歩いてベンチに戻ってきた。こちらの声かけも聞こえない。そして、彼はグラウンドから去ることを選択した。彼は熱心に勝つための努力を続けてきた選手だった。チームに対する意識も高く、周りもみえる。気配りや気遣いもできる。理想も高く、今日の彼の行動は、彼自身が一番嫌だとする行動だった。顧問達もその行動には、とても残念な気持ちと、彼にどうすればわかりやすく伝わるのか悩んでいた。そして、この次の行動を彼がどう起こすのか、顧問達の思いを彼にどう伝えていくのか。考えながら、次の日の朝を迎えた。朝７時半、彼は顧問達のところにやってきた。謝罪だった。自分でもどうして良いのかわからなくなり、帰ってしまったが、冷静になった時に自分が一番嫌だと思っている行動をしていることに気づいて、話にきてくれたのだ。**とことん落ち込んだことで吹っ切れてくれたようだった**。３人の顧問がそれぞれ個別に話をしていったところ、こちらの想いや次のイメージや夏の大会までに身につけてほしい技術や戦術について**整理ができ始めたようだ**。ようやく夏の大会のイメージがこちらも少しできはじめた。**さぁ夏の大会開幕まで３週間**。最後まで彼らの中で迷いや不安と向き合う時間はまだまだ長い。**どこまでシンプルにやろうとしていることを表現してくれるのか楽しみだ。**